

第 18 回大会発表概要：ユニバーサルデザイン研究部会

2017 年 9 月 16 日（土）東京工業大学大岡山キャンパス

西 9 号館 3 階 W933 講義室 第一部 (2) 13:00～13:50

1. 発表プログラム

研究発表 (1)：「LIFE SHIFT ～ダイバーシティー時代の人生の働き方～」

発表者：奥田浩士（プラス株式会社）

発表者：高橋未樹子（コマニー株式会社）

2. 発表の概要

2.1 「LIFE SHIFT」

ユニバーサルデザイン研究部会ではこれまでの研究を振り返り「65 歳以上の定年退職者」から「3 歳以下の子を持ち若くとも働く機会に恵まれない方」まで多くの就業制約を持つ人が現存することを再報告した。

より多くの就業機会を創出し、多様な働き方を実現するためにユニバーサルなワークプレイスやスタイルの実現に加え、各個人に合った働き方を計画、実践することが求められると言う。

研究部会では藤木武からリンダ・グラットン著の「LIFE SHIFT」の書籍を例にあげ人生 100 年時代を迎えた現時代において教育、勤労、引退という足並み揃えた働き方と人生の送り方が終焉を迎え初めていると述べた。

かつては 60～65 歳で引退し平穏な隠居生活を過ごしながら人生の終止符を迎えていたが、現在では健康寿命が延び定年を迎えてからも多くの方が社会に関われる時代になった。

その変化の中で「LIFE SHIFT」で取り上げられた 3 つのライフスタイルを紹介した。

①ポートフォリオワーカー（自身の能力を整理しながら将来のビジョンに向けて新たな知識を学びステージアップする者）

②エクスポーラー（自らの進路を自由に切り開き、模索する探求者）

③インディペンデントプロデューサー（自由と独立を重視し小さなエンジンとして自ら開拓をする開拓者）

研究部会からは様々なステージで活躍するワーカーは上記のライフスタイル意識を持たなくともいずれかに該当するのでないかと仮説を立て、実際に活躍するワーカーや施設の活動視察を行ったと言う。

2.2 視察対象

企業選定は年齢、業種、地域を限定することなく、出来るだけ将来を見据えて実験的な働き方実行が見受けられる対象

者に絞った。

事前に視察ポイントを「KOTO」「HITO」「MONO」視点で定めておきヒアリングと合わせて実施した。



(発表者／奥田浩士氏)

① ポートフォリオワーカーの視察として奥田浩士から兼業推奨の株式会社エンファクトリーを紹介した。

(株)エンファクトリーはオンラインショッピング事業、専門家マッチング事業、プロジェクト開発受託事業を手がける 2011 年の創業の株式会社イードのグループ会社でパレルワークを推奨している。

社員が兼業を行いながらお互いの情報を共有し（エンターミナル）またフェロー制度を使った互いに成長発展できる制度などを推奨することで、自分自身で稼ぐ力をつけさせることが企業力向上につながると紹介した。

彼らはオフィスの形にこだわらず各々が好きな場所で業務を行い、必要な時だけ一堂に集まり情報を交換する。

②エクスポーラーの視察としてとして高橋未樹子からアートとデザインによる新しい仕事の創出を試みる奈良県の香芝に新設された「Good Job Center 香芝」を紹介した。

Good Job Center 香芝は障害のある人とともにアート、デザイン、ビジネスの分野を超えた新しい仕事を作り出す目的で作られた。個人、企業、地域の壁を超え誰もが参加できる同センターは、3D プリンターを使った商品開発を行ったり、併設のカフェでワークショップを行ったり、また日本中のエイブルアート系の商品を扱っている SHOP も経営している。多岐にわたる活動を行うことにより、次に展開が出来る方向性を参加者全員で模索していると言う。



(設計 / 大西麻貴 + 百田有希 + 中島敦広一級建築事務所)

Good Job Center 香芝は活動プロセスを 2016 年のグッドデザイン賞金賞を受賞した。また建築では大西麻貴 + 百田有希 + 中島敦広一級建築事務所が手がけており非常に開放感があるセンターとして他県からの見学も多い。

最後に③として「きづきデザインラボ」を取り上げた。

「きづきデザインラボ」代表の竹綱章浩はオフィス家具メーカーを定年退職してから大学院にてインクルーシブデザインの修士課程を終え、現在は地元でデザイン事務所を経営している。事業利益とは別に地域に密着した地場産業の活性化に尽力を注いでいると言う。

自宅を改良したコンパクトで心地良い事務所では、プロダクトからコミュニティーデザインまで幅広い活動をこなす。

他県の施設等で講演会を行ったり、地産材での家具のデザインまで行っている。

企業勤務では得られない広い地域コミュニティー形成は、社名通りデザインに対して新たな「きづき」を多々得る事があと言う。

現在も竹綱氏は引退などの言葉を全く感じさせずエネルギーでインディペンデントプロデューサーとしての活躍を実践していると報告された。



(きづきデザインラボにて)

2.3 研究からうかがえる今後の展開

本研究発表では各働き方を紹介しながら、それぞれの働き方を「KOTO」「HITO」「MONO」でマトリクスを作成しキー

ワードの抽出を行い

「KOTO」

- ・ワーカーは一通りで無い、パラレルな働き方
- ・アート×デザイン×ビジネスの新領域

「MONO」

- ・オフィス以外での柔軟な場所で働く対応力

「HITO」

- ・地域交流や、専門的な知識の獲得
- ・年齢や経歴に縛られない、未来への目的意識が重要なキーワードになると発表された

	「産業」 エンファクター	「シニア」 きづきデザインラボ	「地域」 グッドジョブセンター
KOTO	<ul style="list-style-type: none"> ・自己実現ターミナル ・パラレルワーク制度 ・学生が活躍できる環境 ・コンタクトミナル 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院で専門分野の進学 ・留学中の社会人ワークショップ参加によるネットワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・アート×デザインによる新しい仕事の創造 ・異分野をつなぐプラットフォーム構築
HITO	<ul style="list-style-type: none"> ・人材ポラリー！卒業禁止 ・「アソシエイトワークのルール」 ・独自の文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学時の専門スキル ・即実践型学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・所得の再分配から可能性の再分配
MONO	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークプレイス ・家具 ・空間 ・ICT ・建築/設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・自社オフィスは最小限に抑える ・会議室はシェアオフィス ・オフィスに固定的な費用を掛けない ・コストで柔軟に対応できる ・複合施設により、リアル店舗運営やレストランでのイベント実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の仕事場、アトリエ ・自らのスキル、サークルなど DIY

(視察から見る「KOTO」「HITO」「MONO」マトリクス)



(発表者 / 高橋未樹子氏)

最後に内閣府高齢社会白書から日本における平均寿命を紹介され、2010年の平均寿命は男性 79.64 歳、女性が 86.39 歳から 2050 年には女性の平均寿命は 90 歳を超えると言う。

決して遠い未来では無く近い将来に 100 年人生と言われる多様な人の生き方が加速化する時代がやってくる。

視察やヒアリングから人生に置ける働き方の多様性を重要視し、個人一人一人が自身のビジョンを考え、準備し、学び、社会で働く行動が次のユニバーサルなワークライフを実現するのではないかと提案された。

今後は 2020 年オリンピック需要での好景気に合わせ外国人労働者の増加「HITO」が予想され、ハラル対応や礼拝場所の確保など今まで身近に見られなかった「MONO」や「KOTO」が発生する。

研究部会では外国人労働者や今後も深刻な問題である子育て労働者に対して研究を継続していく。

(藤木武史)